

山形県教育委員協議会の概要

1 日 時

令和7年7月24日（木）15時12分～15時37分

2 場 所

山形県庁舎教育委員室

3 意見交換テーマ

学力向上に向けた取組みについて

4 主な発言要旨

- ◇ 自ら進んで学習に取り組める子どもがいる一方で、どのように取り組んでよいかわからない子どももいる中で、近年、宿題を減らす傾向にある学校が増えていることは、子ども達の個々の学力差が広がることにつながらないか憂慮している。（和田委員）
- ◇ 小学校高学年になると学習内容も高度になってくるため、小学校において1人の先生が全ての教科を教えるのではなく教科担任制の取組みの推進が、先生方の負担軽減、子ども達の学力向上につながるのではないかと考える。（和田委員）
- ◇ ICT教育の推進に当たっては、ICTを使うことが目的になってはならないと考える。AIドリルのように子ども達が楽しみながら繰り返し取り組めるような工夫をするなど、ICTを学習の効率化、定着化の手段として活用していくことが学力向上のために重要と考える。（丹治委員）
- ◇ クラス単位の授業だけではなく、習熟度別の授業も取り入れることで、苦手な子どもに丁寧に教えることができ、得意な子どもをどんどん伸ばす環境を整えることができるのではないかと感じる。（丹治委員）
- ◇ 家庭の事情により教育にかけることのできる時間やお金が変わることが子どもの学力差につながる場合がある。こうした場合のフォローや支援に関しては、人口が多い都市部の学校よりも人口が少ない地方の学校の方が取り組みやすいと思われる。学校における適切なフォローができるような工夫や配慮が学力向上につながるのではないかと感じる。（手塚委員）
- ◇ 教職員が不足している現状において、同じ世代の同じ感覚を持った子ども達同士の教え合いを進めることが有効と考える。学習版ドリームキッズのような取組みにより、学習ができる子が他の子に教える仕組みを構築することも効果を発揮するものと思う。（小関委員）
- ◇ なぜ勉強するのか、学ぶことによって何が得られるのかという、学習に対する動機付けにより自主的に学習していく方向に導いていくことが、学力向上につながるものとする。（小関委員）

◇ 自治体における公民館等での学習ボランティアを活用した子ども達への学習支援の取組みを充実させることが、長期休みの家庭学習をサポートすることにつながり、また、教える側の学びにもなり、学力を向上させる上で効果的と考える。

(工藤委員)

◇ 学校では取り組みづらいと思われる、理解度に応じたレベル分けのような学習プロジェクトに取り組むことが効果的と考える。勉強が得意な子どもが周りから評価され、さらに上に伸びていけるような取組みがあっても良いのではないか。

(工藤委員)